

# 第6回定期 総会報告

この原因は、我々役員に至らぬと同時に、会員諸氏に同窓会への情熱を起こさせる魅力に欠けていたからである。この魅力を取り戻すために活動の刷新、及び役員活動の活性化を計りたい。今後の活動計画としては、同窓会館の建設、大学に対する種々の援助、支部への資金提供、同窓会報の作製、有資金の創立、従来の役員制、幹事会、総会等である。この中で幹事会館の設立には、資金及び設立場所等の問題があり、これを具体化するためには会員からの積極的、又実質的援助を必要としていく。同時に会の努力向上と共に、役員を全力を投入する覚悟である。この後名簿交換による関係長から学図状況と同時に次のような挨拶をいただいた。

同窓会をどの様に盛り上げていけばよいか、どんななか、今更には同窓会に出るべきでない、今更にはこの問題は離れよう、役員の方力により、なんなん向う深くであるが、会員相互の友好を深め発展することを望みます。引き続き、大家長を議長として、総会審議入り次の様なことが審議議された。

# 広島 同窓会会報

活動の刷新、同窓会館設立などを議題

活動の刷新、同窓会館設立などを議題

## 決議事項

一 広島工業大学同窓会内規改正 第一條兼附録第一條 就資格は 役員及び居宅地より役員候補地までの交通費を当日の日当五〇〇円を加算するものとする 第二條費用規定第一條 教職員の逝去に対して香典として一〇〇〇円を御礼ならしめるものとする 但し、状況により役員会において協議するものとする 第四條手当支給規程第一條 同窓会発行責任者に手当を支給するものとする 但し、 五〇〇〇円、会報発行責任者は一〇〇〇円とする。

## 活動報告

昭和四十六年十一月同窓会報第四号発行 昭和四十六年三月同窓会誌第五号発行 五回定期総会開催 総合運動会開催

新役員によって昭和四十六年度の活動方針が発表された。その内容は、「会員生活の安定」 「同窓会館の建設」 「同窓会誌の発行」 「同窓会創立の活動」 「同窓会創立の活動」 「同窓会創立の活動」 「同窓会創立の活動」 「同窓会創立の活動」 「同窓会創立の活動」 「同窓会創立の活動」

## 決定事項

一 広島工業大学同窓会内規改正 第一條兼附録第一條 就資格は 役員及び居宅地より役員候補地までの交通費を当日の日当五〇〇円を加算するものとする 第二條費用規定第一條 教職員の逝去に対して香典として一〇〇〇円を御礼ならしめるものとする 但し、状況により役員会において協議するものとする 第四條手当支給規程第一條 同窓会発行責任者に手当を支給するものとする 但し、 五〇〇〇円、会報発行責任者は一〇〇〇円とする。



### 昭和46年度予算案

会誌代	400,000
会報費	200,000
通信費	300,000
会議費	700,000
交通費	500,000
大学奨助金(図書館新築に対して)	300,000
自治会援助金	300,000
記念品代	300,000
消耗品代	200,000
計 hands	150,000
支部費(関東支部)	300,000
予備費	3,676,971
計	5,616,191

第百六次會計第十六次 この会の経費は終身会費、寄付金及びその他の収入を有する。この中で「幹事会費」は、入会金として入会時に一〇〇〇円を納入し入会後ならばない。 第七條 準会員は正会員となる時終身会費として六千円を納めなければならない。 但し、終身会費は四年で納め、納入し納まるものとする。

### 昭和45年度會計報告

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
前年度繰越金(45年3月31日締)	3,856,602.9	同窓会会報発行費(発送費を含む)	134,399.5
終身会費(44年度分469名)	234,500.0	同窓会誌第5号発行費(会誌発行に内関する雑費を含む)	463,670.0
入会金(45年度分876名)	4,380,000.0	同窓会誌発送費	9,200.0
預金利息	35,821.5	同窓会創立費及び懇親会費	154,000.0
(44年度分及び45年度分)	47,758.8	記念品代(第6回卒業生へ贈呈灰皿960個)	343,000.0
広告料(同窓会誌第4号記載25件)	274,000.0	自治会援助金(大学祭料別冊、ネット部全国大会参加奨助)	163,500.0
懇親会費(同窓会誌第5号)	52,000.0	関東支部運営費	30,000.0
計	7,370,829.2	会議費(会場使用料、役員の日当及び交通費等)	80,506.0
		通信費(総会の通知ハガキ代印刷代)役員通知(電話料)住所編成作成等のハガキ代、印刷代)	148,168.8
		消耗品費(用紙、セロテープ、領収書購入費等)	30,185.0
		備品費	5,250.0
		アルバイト代(会誌、会報発送に関する住所書き)	14,700.0
		交通費(広告、広告料収集費等)	18,430.0
		手 費	8,000.0
		追伸文集購入費(故船水正利教授)10冊分	15,000.0
		記念品代(渡辺教授退官)	8,000.0
		小 計	1,708,858.8
		残 高	5,661,971.2
		計	7,370,829.2

### 昭和46年度役員名簿

会長	中 原 重夫
副会長	村 田 弘志・小西 正明
幹事	川 畑 敬志・猪上 憲治・中西 助次
幹事	森 本 房義・峠 孝司・三戸忠一郎
評議員	石 川 謙・戸川 誠・河野 信義
	大 塚 暹道・松井 義孝・田口明水
	大 田 正則・木村 一彦・井田 原莊
	大 田 隆夫・西藤 正和・上治 隆夫
	金 福 一郎・岩井 晴子・山口 英光
	藤 田 雅臣

### 幹事名簿

湯 沉 照	王 野	和 康	重 広	孝 則
砂 田 謙二	沖 根 光夫	山 崎 孝則		
原 義治	森 滝 美治郎	小 田 一行		
砂 田 松江	秀 敏	立 田 貞路		
河 原 辰三	光 岡 順子	齊 木 忠人		
菅 久	前 田 伊津子	松 山 謙子		
西 山 正代	大 重 隆	近 宗 貴夫		
藤 田 弘賢	友 賢 克規	神 野 貴夫		

この大学が電子、電気のご二学科  
で短大と出て出立したのが三十六年  
の春丁度卒業生が年輪たるが短大で  
計画は三年制新制制に入り改組  
をばい。またこの二に東は改組  
でおられたのかと思ふ。三十八年  
春大にも工業系を設けることにな  
り。また一年部を漢語部二年学  
に編入した。降昌は中止の形とな  
った。現況の短大をいふやうに至  
るまで丁度八年前後の歳月が流れ  
た。大学創設の始末がどうなる

意外の短期間に意に立派な全  
国第一の工業教育機関に成長した  
のは、理者として、種々学歴の上  
には、言及しおられたい。  
だが、今少ししる事  
に。この大の素因を分析  
的に考へて見ると、  
今後はとも見ることが  
あるまいと思ふ。

私は昔がその言葉  
からは何となくも業  
的な色彩がぬけてい  
はなれない。企業とい  
い立場から見るとこの  
品は卒業者とこの製  
品に卒業者といふこと  
に落ちつく。製品はよ  
く需要をよめるはける

かどうは、企業の円  
滑な成長の鍵となる  
この大のよなな新興  
私大があらがかに運賃  
私大があらがかに運賃  
卒業者が良く適職を得て、その資  
力を生かして行くか否かにかかると  
と思ふ。初回大工の第一回卒業生  
とは言ふはなかつたが、其後  
わが卒業生は急いで三股線弁に  
人手不足をかかへようになつた。  
二年と共に玉石瀝石という過激ではな  
い先売出したというも過言ではない  
かも知れぬ。私大の運営が正常に  
なつた。これは眞法にいうやうな  
「天の功」である。このの時  
をうまく利用したところ、この時  
事者胸のさみ味があると言ふ  
當りがそなたの「地」の利とい  
うは、これを考へて。当りとは  
大きくして少くも利を手先「こ」  
大学は全国一の利を手先「こ」に

### 広島工大拾年の思い出

めた大学になつて私は信じている  
何物にも優越の優がある筈はない  
勉学にも優越的な物である筈はない  
その血と眼下におもひ願ふ願ふ光  
をほし、また  
公害がは比較的散れて立ても  
春大と初一年部を漢語部二年学  
に編入した。降昌は中止の形とな  
った。現況の短大をいふやうに至  
るまで丁度八年前後の歳月が流れ  
た。大学創設の始末がどうなる

機はかす進しようと思ふ。いか  
職はかす進しようと思ふ。いか  
機はかす進しようと思ふ。いか  
職はかす進しようと思ふ。いか  
機はかす進しようと思ふ。いか  
職はかす進しようと思ふ。いか

私は昔がその言葉  
からは何となくも業  
的な色彩がぬけてい  
はなれない。企業とい  
い立場から見るとこの  
品は卒業者とこの製  
品に卒業者といふこと  
に落ちつく。製品はよ  
く需要をよめるはける

かどうは、企業の円  
滑な成長の鍵となる  
この大のよなな新興  
私大があらがかに運賃  
私大があらがかに運賃  
卒業者が良く適職を得て、その資  
力を生かして行くか否かにかかると  
と思ふ。初回大工の第一回卒業生  
とは言ふはなかつたが、其後  
わが卒業生は急いで三股線弁に  
人手不足をかかへようになつた。  
二年と共に玉石瀝石という過激ではな  
い先売出したというも過言ではない  
かも知れぬ。私大の運営が正常に  
なつた。これは眞法にいうやうな  
「天の功」である。このの時  
をうまく利用したところ、この時  
事者胸のさみ味があると言ふ  
當りがそなたの「地」の利とい  
うは、これを考へて。当りとは  
大きくして少くも利を手先「こ」  
大学は全国一の利を手先「こ」に

### 久保 進

「おつ、おつ」とい  
二千餘名の中国の虚無地への  
何物にも優越の優がある筈はない  
勉学にも優越的な物である筈はない  
その血と眼下におもひ願ふ願ふ光  
をほし、また  
公害がは比較的散れて立ても  
春大と初一年部を漢語部二年学  
に編入した。降昌は中止の形とな  
った。現況の短大をいふやうに至  
るまで丁度八年前後の歳月が流れ  
た。大学創設の始末がどうなる

機はかす進しようと思ふ。いか  
職はかす進しようと思ふ。いか  
機はかす進しようと思ふ。いか  
職はかす進しようと思ふ。いか  
機はかす進しようと思ふ。いか  
職はかす進しようと思ふ。いか

私は昔がその言葉  
からは何となくも業  
的な色彩がぬけてい  
はなれない。企業とい  
い立場から見るとこの  
品は卒業者とこの製  
品に卒業者といふこと  
に落ちつく。製品はよ  
く需要をよめるはける

かどうは、企業の円  
滑な成長の鍵となる  
この大のよなな新興  
私大があらがかに運賃  
私大があらがかに運賃  
卒業者が良く適職を得て、その資  
力を生かして行くか否かにかかると  
と思ふ。初回大工の第一回卒業生  
とは言ふはなかつたが、其後  
わが卒業生は急いで三股線弁に  
人手不足をかかへようになつた。  
二年と共に玉石瀝石という過激ではな  
い先売出したというも過言ではない  
かも知れぬ。私大の運営が正常に  
なつた。これは眞法にいうやうな  
「天の功」である。このの時  
をうまく利用したところ、この時  
事者胸のさみ味があると言ふ  
當りがそなたの「地」の利とい  
うは、これを考へて。当りとは  
大きくして少くも利を手先「こ」  
大学は全国一の利を手先「こ」に

### 就職を考える

が生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習

が生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習

が生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習

が生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習  
を生き方に傾いている人。世の習

### あぶれ者賛歌

めりやうである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ

めりやうである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ

めりやうである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ

めりやうである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ  
ところがあぶれである。あぶれ



### 同窓会 会員だより

不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に

不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に

不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に

不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に  
不満を物言っている人。世に





